



LABO7 生 夏の確かな成長（後編）

朝夕の風も涼しくなり、秋の訪れを感じる季節となりました。日が沈むのも早くなり、自然と子どもたちが家にいる時間も長くなってきたことでしょう。今回は先月（8月）下旬、夏期講習の後半に行った小学生プログラム「SUMMER SEMINAR」から、「ラボセブン書店～決戦・ビブリオバトル！～」（Arts）と「思考力と理系脳を鍛えるらぼせぶん算術道場」（Science）についてお伝えします。

「ラボセブン書店」では、まず自分が今まで読んだ中で最も心に残った本を1冊選び、本のあらすじや最も読み応えのあるところ、自分とその本との出会いなどを文章でまとめることから始めました。その後、京都大学発祥の知的書評ゲーム・「ビブリオバトル」にチャレンジ。資料も図表も用いず自分のトークだけで5分間語りつくすプレゼンテーションを行い、その本について3分間ディスカッションをし、最後に全員が協議して「チャンプ本」を決定しました。どの学年のどの子どもたちも事前にしっかり準備をしてきたため、5分間しっかりと語る事ができ、達成感に満ちた表情をうかべていました。ビブリオバトルの後は、書店員さんになったつもりで、「店頭 POP」を色鮮やかに仕上げ、1分間のコマーシャルも作りました。

「らぼせぶん算術道場」は、かつて江戸時代に庶民の間で広まっていた「和算」をテーマにした算数・数学的プログラム。最初に京都・安井金刀比羅宮に実際に奉納されている算額の問題を現代語に翻訳。（この翻訳を通じて、「神無月」などの陰暦月の読み方や、現代ではなじみの薄くなった「初午」「菊の節句」など当時の暦や季節感にも触れました。）その上で挑戦した問題は、おもに不定方程式や階差数列・順列など、本来なら高校数学の知識があれば一発で解けるものなのですが、数字の規則性に気づきさえすれば、小学校の算数の知識を使って根気強く計算を重ねることで解けるものばかり。みんなで力を合わせて話し合いをしながら挑戦する中で、「わかった！」「できた！！」の聲が飛び交いました。答えまでたどりついたグループは、「なぜその答えにたどりついたか」をミニホワイトボードで書いてまとめて、前に立って解説しました。

今回の両プログラムで共通するトレーニングは、みんなの前で自分の意見を表明する「プレゼンテーション力」の強化もちろんですが、同時に「自分が思ったり考えたりしたことを文章化する」という、いわゆる「記述・論述力」の強化もねらいとしています。現在、大学入試改革が2020年の本格スタートに向けて着々と動いていますが、中でも「記述による“思考力・判断力・表現力を問う選抜試験”については、現在すでに多くの国公立大学・難関私立大学の二次試験で積極的に導入されています。つまり、今後、大学入学後の研究にも不可欠である「記述・論述力」を問う選抜試験がますます浸透していくこととなるでしょう。LABO7では2学期より、アクティブ・ラーニングを行うすべてのクラスで「記述・論述力」のさらなる強化を目指していきます。